

機械・モノの時間地理学

テーマの概要

- 今やあらゆる空間に機械が溢れ、人と同じくらい重要な位置を占めている。
 - 研究等の活動においても各計測機器からパソコンに至るまで機械にあふれている。
 - 研究機器、コンピュータ、記録装置などの「非人間アクター」が研究に関与する。
- 人と同様に機械・モノは動いている。
 - 物流的な移動だけではなく、日常的な移動も行われている。
- 移動を捉える上で時間地理学を採用する
 - 元々、人間を時空間上の点と線で表現をするという観点から、人間性を排した物質の塊として捉える物理主義が根本にある
 - であれば、一般的なモノや機械にも同然、時間地理学の視点を導入することは可能である。
 - 現在の時間地理学は大半が人を対象としており、モノ・機械といった非生物を対象とした研究はない。
 - ゆえにこの研究によって、時間地理学の拡張が図られるのではないかと考える。

主な視点・理論

- アクターネットワーク理論（ANT）：人とモノを対等なアクターとするネットワークの構築。
- ポストヒューマン地理学：人間中心主義を相対化し、人・モノ・空間の関係性を再考。
- 時間地理学：日常生活の時空間構造を把握し、そこに潜む制約を明らかにする。

具体的検討項目

- フィールドワークが主軸の研究について、機械やモノを追っていくことになる？
 - 当然、観察のトレーニングは必要
- 最終的に研究活動で使用された複数の機械・モノを時空間経路図として描く
 - その時空間には、非生物にも制約があるのか？

批判

- 妥当性ある？
 - おそらく研究は可能だが、これがどういった解釈をすべきか検討中
 - 機械－人の関係を考察する？

メモ

- 研究者ないし大学教員と機械（マシン）との関りは何？
 - いつどこで何の機械を使用しているのか？
 - それらの機械からデータおよび知識をどう移行させているのか？

- 機械と機械の時間地理学
 - 今やあらゆる空間に機械が溢れ、人と同じくらい重要な位置を占めている。
 - 研究等の活動においても各計測機器からパソコンに至るまで機械にあふれている。
 - そういった状況下で従来の時間地理学では人中心で研究が進められてきた。
 - しかし、時間地理学の側面の一つとして物理主義が挙げられ、すなわち人を物質の塊とみなすような考えである
 - 物理主義の視点で考えるのならば、当然に人だけでなく、モノも物質の塊である。
 - そのため、モノを対象とした時間地理学というのも特段珍しいものではないはずだ。
 - 人と人の時間地理学はあった、人とモノから怪しい
 - 実証系の分析としての案
 - トラジェクトリー解析を用いる
 - <https://qiita.com/tai-sei/items/416446261cd10d5a17ac>
 - <https://zenn.dev/labcode/books/66b81dd8f44b32/viewer/5hokbf-1>
 - 理論系の分析？としての案
 - アクターネットワーク理論
 - ポストヒューマン的な視座を取り入れた時間地理学の提案
 - 日常的なモノ・機械の相互関係を3つの制約で考えることはできるのか？
 - 研究活動対象にするのはどうか？
 - とくにフィールドワーク
- 機械は行動している？
 - いつもスマホをもっている人がたまたまその日スマホを忘れたとき、GPSのログ上ではずっと家にいるという形になってしまう、ではこの時の行動は誰の行動？
 - 限定的な状況ではあるが、デジタルツインのような完全に物理空間と一致させるなら問題である